

2016 年 12 月 15 日

広島県知事
湯崎 英彦 様

憲法と平和を守る広島共同センター
代表 川后 和幸

沖縄でのMV - 22 オスプレイの墜落事故に関わる申し入れ

12月13日夜、沖縄県名護市安部のリーフに、米軍普天間基地所属の垂直離着陸輸送機MV-22 オスプレイが墜落し、機体は大破して、乗員5人のうち2人が負傷しました。現場は陸地から数百メートルしか離れておらず、一步間違えば大惨事につながる重大事故です。

そもそもオスプレイは、開発以来これまで9回の墜落事故をおこし、40人もの乗員の命を失う欠陥機です。だからこそ、沖縄県民をはじめ、多くの国民がその配備に反対しているわけです。

広島県民にとってもオスプレイの事故は他人ごとではありません。今年3月におこなわれた米韓合同訓練に参加するために、一旦アメリカ軍岩国基地に飛来したオスプレイは、その後、廿日市市や北広島町の上空を飛行し、訓練現場へ向かいました。このオスプレイを目撃し、爆音を聞いた県民から、強い不安の声があがりました。

今後、今回事故を起こした米軍普天間基地所属のオスプレイが、岩国基地を拠点とした訓練を恒常化する可能性があります。

また、12月7日には、高知県の沖合で、同じ岩国基地所属のF A 18 戦闘攻撃機が墜落しました。F A 18 戦闘攻撃機は広島県内を低空飛行訓練している戦闘機でもあり、来春1月からF 35 B ステルス戦闘機に更新するとされています。さらに、厚木基地から岩国基地への大量の艦載機移駐がおこなわれます。騒音と事故の危険性はさらに高まると懸念されます。

あいつぐ米軍機の墜落事故で県民の不安が高まっているのは当然です。被爆地の広島県として今回の事故については、断固とした姿勢で対応すべきです。

今回のオスプレイの墜落事故に関わって、下記のことを緊急に申し入れますので、誠意をもって対応されるよう要請します。

記

- 1、広島県民の安心、安全を守るため、アメリカ軍岩国基地へのオスプレイの飛来中止と厚木基地から岩国基地への艦載機移駐撤回を日米両政府へ求めること。
- 2、広島県上空でのオスプレイの飛行を拒否するとの態度を広島県として表明すること。あわせて、県内での低空飛行訓練を中止するよう日米両政府へ申し入れること。
- 3、日本国内のオスプレイ撤去を日米両政府へ申し入れること。

以上